

令和4年度「山・海・島」体験活動指導者養成研修会実施報告

日時 令和4年10月31日（月） 10:00～16:00

会場 広島県立総合体育館 大会議室

参加者 小学校等教職員・市町教育委員会関係職員等 25名

内容等



(1) 行政説明 (10:05～10:30)

- ・令和4年度の「山・海・島」体験活動ステップアップ事業について
- ・本研修会の目的等について
- ・集団宿泊活動の内容を充実させるために



(2) 講演 (10:30～12:00)

講師：文部科学省初等中等教育局 視学官 安部 恭子

テーマ：特別活動における集団宿泊活動がもつ意義とその可能性



特別活動における集団宿泊活動がもつ意義について、様々な資料を根拠に話をいただきました。その中で、令和4年7月に公表された全国学力・学習状況調査質問紙調査の結果で、「学校に行くのは楽しいと思うか」、「自分にはよいところがあると思うか」といった質問に「当てはまる」と答えた児童の割合が、令和3年度に大きく減少していることや、国立青少年教育振興機構が実施した調査で、コロナの影響により「体力的」、「生活習慣の乱れ」、「メンタル面」、「人間関係の希薄化」等の課題が顕著に表れていること、そんな中で集団宿泊活動を行うことで、メンタル面の課題が改善されたり、人間関係が深まったりするなどの報告があると話がありました。

また、特別活動において育成を目指す資質・能力についての話もありました。大切なのは、実生活や実社会で活用できる汎用的な力を育む



こと、重要な視点として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」があることなどについて具体的に説明していただきました。

最後に、社会の状況がこの数年で大きく変わってきている今だからこそ、何のために行うのか、どのような力を付けたいのかをしっかりと考え、創意工夫しながら場や機会を充実させ、実践することが求められると話していただきました。

(3) 講話・演習 (13:00~15:50)

講師：国立江田島青少年交流の家 平石 雅彦

テーマ：集団宿泊活動における具体的な指導について
～「気づき」から「学び」へ～



午後からは、参加者の皆さんが体験しながら学ぶ講話・演習を行いました。

自己紹介の後、ワークシートをもとにペアで意見交流を行いました。薪に火をつける場面でどう声をかけるかという問いについて考えました。指導者の役割と視点から自分が考えた回答がどのタイプに当たるか確認しました。そこ

で大切なのは、その場の状況や活動目的、集団の成熟度によって柔軟に対応できるスキルが必要だということでした。

その後、人間関係づくりのプログラムを実際に体験しました。まず、「ぎょうぎジャンケン」というアクティビティを行いました。アイスブレイクの目的があるため、いろいろな人とジャンケンできるように時間や目標の設定がされていました。次に3人組をつくり「コントローラー」というアクティビティを行いました。参加者は、助けを呼ぶ時に少し恥ずかしそうにしていたのですが、仲間を助けた方も助けられた方も「うれしい」という気持ちになったようです。

次に3つグループをつくり、円になって座りました。そこで自己紹介リレーを行いました。前の方が自己紹介した内容を加えて自分の自己紹介をしていきます。しっかりと話を聞くとはどういうことなのか、そのことが相手を大切にすることにつながるという



体験をすることができました。この辺りまで活動すると、参加者同士の距離がかなり縮まったように見えました。

その後、自己紹介リレーを行ったグループで、ネームトスを行いました。フリースボールという柔らかいボールを落とさずにみんなで回していきます。どうやればうまくいくかをグループでアイデアを出しながらチャレンジして行きました。

それぞれの活動を行った後、振り返りを行いました。「上手くボールを回すためには何が大切だと思うか」という平石さんからの問いに「声かけ」、「目を見る」、「投げる順番を決める」、「合図を送る」等の意見が出ました。これらのことは「相手を大切にすること」につながるとみんなで確認しました。

最後にこれまでの体験から出た「気づき」を生かして、課題解決のアクティビティを行いました。

休憩をはさんで、グループワークを行いました。本日の研修での「学び」を生かして5年生の集団宿泊活動（2泊3日）を計画しました。提示された各校の児童の状況をもとに、「めざす姿（目的）」を考え、「気づき」を「学び」へつなげる集団宿泊活動を仕組むポイントを考えながら、グループでアイデアを出し合い、計画を立てて行きました。

各グループが考えた計画をポスターセッションという形で発表して行きました。あらかじめ設定された児童の状況に合わせて、目的に迫るための仕掛けやアプローチの方法を考えて発表し、お互いの学びを深めることができました。

